

配付資料 2：「男も女も、また子供までもが力を尽くして働いた」



「1834年の春と夏は、暴徒に家を追われた聖徒たちを助けようと、地域の大半の男性がジョセフ・スミスとともに、イスラエルの陣営としてミズーリへ行ってしまったため、神殿建設が思うようにはかどらない時期でした。男性たちの留守中は、女性たちが労働を続けました。ある者は石工を行い、ある者は牛に切り出した岩を引かせ、またある者は縫い物、糸紡ぎ、編み物をして労働者のための衣服を作りました。」(リサ・オルセン・テイト、ブレント・ロジャース「神のための宮」『啓示の背景』マシュー・マクブライドとジェームズ・ゴールドバーグ編または history.lds.org 参照)

エライザ・R・スノー姉妹(1804－1887年)は、後に中央扶助協会会長として奉仕しましたが、神殿が建てられているところにカートランドに住み、聖徒たちの信仰と犠牲をこのように表現しています。



「聖徒たちの人数は少なく、とても貧しい人がほとんどでした。もし神殿を神の御名のために建設するようにと、神が話され、命じられたという確信がなければ、……当時のそのような状況下で神殿を建てるという試みは、かかわるすべての教会員がばかげたことだと言ったでしょう。……

頭脳と身体を使う以外財源がほとんどありませんでしたので、神を固く信頼して、男も女も、また子供までもが力を尽くして働きました。……少しのお金でもこの大いなる目的〔のために使われる〕ようにできるかぎり〔節約して〕生活を切り詰めました。」(Eliza R. Snow, in

Eliza R. Snow: An Immortal [1957], 54, 57)

- この話は、教義と聖約 95：11 で教えられている原則をどのように説明しているでしょうか。